

2009 年 7 月 20 日

2009 年 11 月 11 日最新

報道関係者 各位

早稲田大学・DAYS JAPAN 共催

フォトジャーナリズム・フェスティバル

開催期間：2009 年 9 月 28 日(月)～2010 年 2 月 27 日(土)

コア期間：2009 年 11 月 23 日(月・祝)～12 月 5 日(土)

会場：早稲田大学(早稲田キャンパス・戸山キャンパス)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

2009 年 11 月 23 日(月・祝) から 12 月 5 日(土)をコア期間とした、早稲田大学・DAYS JAPAN 共催による『フォトジャーナリズム・フェスティバル』を開催します。

今回は「フォトジャーナリズム」の視点から「現場のジャーナリストの仕事にふれて再認識する」「ジャーナリズムに信頼を取り戻す道を模索する」「激変するメディア界の将来について考える」などジャーナリズムの全般について問いかけます。

開催期間はコア期間を 2 週間とし前後数か月にわたる長期間の複合的イベントとなります。学生はもちろんのこと幅広い層を対象としていますので、みなさまにご参加いただきジャーナリズムへの意識がより高まることを希望します。

つきましては、貴媒体にてぜひ多くの方々にご紹介くださいますようお願い申し上げます。

敬具



1. 趣旨

「フォトジャーナリズム・フェスティバル」は早稲田大学と DAYS JAPAN の共催によるものです。

「ジャーナリズム」といっても広範囲におよぶため、今回は「フォトジャーナリズム」の視点から「現場のジャーナリストの仕事にふれて再認識する。」「ジャーナリズムに信頼を取り戻す道を模索する。」「激変するメディア界の将来について考える。」などジャーナリズムの全般について問いかけます。

例えば、ジャーナリストの仕事、とくに人権や生命を守るための役割を理解するという点では、ビジュアル・ジャーナリズムも活字ジャーナリズムも、基本的には共通の基盤を持っていますが、このジャーナリズムの基盤が理解されないまま、器であるメディアの種類だけが語られる傾向があります。

経営が中心に語られる「メディアの危機」ではなく、「ジャーナリズムの危機」を考え、人々は何を知る必要があるのか、何を伝えるべきなのか、ジャーナリストは何を守るべきか、この問題に絶えず立ち返り、現場のジャーナリストたちの仕事にふれながら、メディアの状況、未来についても考える機会をもちます。

本フェスティバルは展示・講演会などイベントを行うとともに、早稲田大学が長いジャーナリズムの歴史をもつ大学であるため、本学でのジャーナリズム教育の活動を紹介します。また、各イベントも学生をはじめとしたボランティアの協力を得て、インタラクティブな活動を行っています。

その期間は、コア期間を2週間とし、前後数か月にわたる長期間の複合的イベントとなります。学生はもちろんのこと幅広い層を対象としていますので、みなさまにご参加いただき、ジャーナリズムへの意識がより高まることを希望します。

2. イベント概要

※詳細は随時告知します。また都合により変更・中止もありますのでご了承ください。

オープニングイベント・公演

「フォトジャーナリズム・フェスティバル」コア期間開催のご挨拶

ご挨拶(予定): 瀬戸直彦(早稲田大学文化推進部長)、広河隆一(DAYS JAPAN 編集長)

「生命のコンサート」音楽と写真のコラボ

「知る」「伝える」「生命をまもる」日本で最大のフォトジャーナリズム・フェスティバルの幕開けとして、歌と写真と語りによるコンサートを開催します。

出演: 加藤登紀子(歌手)、ナターシャ・グジー、MINA(アイヌ歌手)、青柳拓次(アーティスト)

講演: 「ジャーナリストと世界」立松和平(作家)

講演: 「フォトジャーナリストの志について」広河隆一

日時: 2009年11月23日(月・祝) 挨拶14時40分、コラボレーション 15時から

会場: 大隈記念講堂(以下「大隈講堂」) 大講堂

申込方法: 当日参加もできますが、ご予約されることをお勧めいたします。お名前・ご連絡先・参加人数をご記入の上、kikaku@daysjapan.net または 03-3322-0353 (FAX) までお申し込み下さい。

展覧会

1. 「地球の上に生きる 2009」

DAYS JAPAN が 2005 年から始めた DAYS 大賞受賞作品の代表作品を約 100 枚展示します。これまでの 5 年間、世界で何が起きたのか、人間と自然の尊厳の決定的瞬間をとらえた写真で伝えます。

会期: 2009年11月21日(土)~12月5日(土)

開館時間 8時~22時(*施設の開館時間に合わせた場合)

休館日: 11月22日(日)

会場: 早稲田大学戸山キャンパス学生会館2階 アトリウム

2. 「DAYS の 5 年 戦争と混乱の時代ーフォトジャーナリストは何を伝えてきたか」

イラク戦争開戦から1年後に創刊した DAYS JAPAN が伝えてきた多くは、ますます複雑化した混乱する世界を映し出しています。それらの写真約 100 枚を展示します。しかし本誌は、いつの時代にもあるように、人間や自然がたくましく生きる姿も伝えてきました。翻弄する今、世界がどこに向かおうとするのか、5年間の軌跡の中に一筋の光が見えることを願います。

会期: 2009年11月21日(土)~12月5日(土)

開場時間: 9時~21時

期間中の休館は無し

会場: 早稲田大学 27 号館(小野梓記念館)地下2階 小野記念講堂(以下「小野講堂」)ロビー

3. 広河隆一「人間の戦場 40 年」―核と中東とアジア

40 年以上現場を追い続けている広河隆一が、一瞬をとらえた写真をととして、被写体の声を伝え続けてきました。

会期:2009 年 11 月 16 日(月)~12 月 19 日(土)

開館時間:10 時~18 時

休館日:無し

会場:早稲田大学 26 号館 10 階「125 記念展示室」(以下「125 記念室」)

4. 「フランス・バイユー戦争報道特派員写真受賞作品・野外展」

フランス・バイユーの代表写真 12 枚を早稲田大学で野外展示します。室内に入らずとも、大学すべてが「フォトジャーナリズム・フェスティバル」一色となり、フェスティバル全体を盛り上げていきます。

会期:2009 年 11 月 16 日(月)~12 月 19 日(土)

開場時間および休館日:フェンス展示は随時観覧可能。

会場:早稲田大学構内

5. 特別展示「^{さわ}触れる地球」

竹村真一(Earth Literacy Program・京都造形芸術大学教授)

協力 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)、S.A.L.(慶應義塾大学学生団体)、NGO

北海道洞爺湖サミットや愛・地球博などで展示され、日本にとどまらず、世界でも注目されている地球儀の展示です。DAYS 大賞受賞作品、および NGO やボランティア団体が世界中で活動する内容を実際にデータに組み込み、立体的に世界を映し出していきます。なお、会期中に竹村真一教授によるデモンストレーションと解説を実施。

→「上映会・講演・シンポジウム等」へ。

会期:2009 年 11 月 21 日(土)~12 月 5 日(土)

開場時間:10 時~18 時

会場:早稲田大学 27 号館(小野梓記念館)1 階 ワセダギャラリー(以下「ワセダギャラリー」)

6. 記念展『石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞の軌跡』

共催 早稲田大学広報室

早稲田ジャーナリズム大賞の創設以来の軌跡を、パネルおよび作品現物等の展示でご紹介します。

会期:2009 年 11 月 21 日(土)~12 月 5 日(土)

開場時間:9 時~21 時

会場:早稲田大学 小野講堂地下 1 階通路

7. 坂田雅子監督『花はどこへいった』関連企画

グレッグ・デイビス写真展「ベトナムへの視線」(Greg's moments of life:Vietnam)

※終了しました

共催 早稲田大学川口芸術学校

『花はどこへいった』上映会の関連企画。同作品の中核となる人物かつ監督の夫、グレッグ・デイビスが撮影した写真約 30 点などを展示。

会期:2009 年 9 月 28 日(月)~10 月 10 日(土)

時間:10 時～18 時

閉室日:10 月 4 日(日)

会場:ワセダギャラリー(早稲田大学 27 号館 1 階)

紹介ページ http://www.waseda.jp/cac/exhibition_20090904.html

8. 「占領期雑誌フォトス vs 現代若者の眼力^{めぢから}」

「現代若者の眼力(めぢから)」展では、清里フォトアートミュージアム ヤングポートフォリオの収蔵作品の中から、石井仁志プロデュースのもと、31 作家・合計 130 点を展示します。また、占領期写真の展示も併せて計画中で、総展示枚数は 100 点ほどを予定。

会期:2010 年 1 月 9 日(土)～2 月 27 日(土)

開室時間:10 時～18 時

会場:125 記念室

閉室日:日曜・祝日

9. 『この壁を飾るのは誰、この台上を埋めるのは君』(オルタナティブ・ギャラリー)

学内、学外を問わず若手中堅の写真家(プロ)や、セミプロ、アマチュアのノンジャンル作品持ち込みを、そのまま展示。各自のポートフォリオも展示台を設けて閲覧し、この場での批評会や議論を推奨、各メディアの取材、ギャラリストの方々へのお披露目の場が設定できれば教育機関の新たな試みとして面白い企画となるのではと考えています。

※展示条件:写真はカラー、モノクロ、データプリント出力どれも可。四つ切で 1 人 4 枚まで(ただし招待作家 6 人はこの条件に当てはまらない)。

会期:2009 年 12 月 14 日(月)～2010 年 1 月 16 日(土)

開場時間:10 時～18 時

会場:ワセダギャラリー

閉室日:日曜・祝日、冬季休業期間 12 月 27 日(日)～2010 年 1 月 11 日(月・祝)

上記ほか、学生作品展覧会を開催予定

世界を視るスライドショー

時間：各日とも 18 時 30 分～

会場：大隈講堂 大講堂

①2009 年 11 月 24 日(火)

「DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞受賞作品①」、「フランス バイユー戦争報道コンテスト」、「DAYS が伝えた世界の 5 年間」、「フランス ペルピニアン世界報道写真祭①」、「広河隆一「人間の戦場 40 年」①ーパレスチナ、薬害エイズ」、「キャパとマグナム」

②2009 年 11 月 26 日(木)

「DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞受賞作品②」、「祝島ーDAYS フォトジャーナリスト学校卒業展」、「在日外国人の撮影した日本」、「フランス ペルピニアン世界報道写真祭②」、「広河隆一「人間の戦場 40 年」②ーチェルノブイリ、ゲバラが戦った地」、

「『日本ドキュメンタリー写真コース・コンテスト』発表」早稲田大学文化推進部、DAYS JAPAN、毎日新聞社 共催
→コンテスト詳細は告知サイト参照 <http://www.waseda.jp/cac/news090801.html>

上映会・講演・シンポジウム等

※コア期間オープニング以降の日程順→コア期間外は開催日順

1. プレ・シンポジウム「戦争・写真 そしてメディアの危機」

日程：2009 年 11 月 22 日(日) 14 時

会場：大隈講堂 大講堂

個人が情報に翻弄ほんろうされずに「世界を視る目」を持つために。そしてメディアが「自立した報道機関」であるために。

「メディアで働きたい」と考えている学生、必見です。

【第 1 部 戦争と写真】

白山 真理 (日本カメラ博物館運営委員)

「日本の戦争の時代、報道写真家たちはどう生きたか」

日中戦争から太平洋戦争における報道写真家たちの役割を、秘蔵の写真を交えて紹介

広河 隆一 (「DAYS JAPAN」編集長・フォトジャーナリスト)

「現代の戦争報道とメディアの役割」

戦場のフォトジャーナリストから、メディアを志す若者へのメッセージ

【第 2 部 メディアの危機とジャーナリズム】

上杉隆氏(ジャーナリスト。硬派のコメンテーター、キャスターとしてテレビでも活躍。「ジャーナリズム崩壊」

(幻冬舎新書) など著書多数)

司会：広河 隆一

2. 「^{さわ}触れる地球／地球環境」

出演(予定): 竹村真一(Earth Literacy Program・京都造形芸術大学教授)、
広河隆一(DAYS JAPAN 編集長)

日程(予定): 2009年11月24日(火)および12月1日(火) 両日とも17時～

会場: デモンストレーション=ワセダギャラリー、解説: 小野講堂

3. 「映像ジャーナリズムに挑む ～ J-School 学生作品上映会」

ジャーナリズムスクールで映像制作を学んできた学生達の作品を発表します。それぞれ作品の制作者による作品の紹介、その後のゲストによるフィードバックを通して、次の映像制作に繋がるシンポジウムを目指します。

また、既にプロとして活躍されている映像ジャーナリストの方に現場報告をしていただき、日本における映像ジャーナリズムの現状、なぜジャーナリスト教育が必要なのか、映像ジャーナリストの未来とこれから目指す者へのメッセージを語っていただきます。

日程: 2009年11月25日(水) 16時～19時35分 ※事前申込不要、先着200名程度

会場: 小野講堂

出演: 林勝彦、神保哲生、野中章人、人見かおり他

プログラム:

16:00～16:15 オープニングゲストの自己紹介

16:15～17:40 J-school 学生作品上映

海外 J-school 生作品上映 制作者による簡単な紹介→上映

17:40～18:10 ゲストによる総括 映像作品へのコメント等

18:10～18:20 休憩

18:20～19:00 映像ジャーナリストによる現場報告

映像ジャーナリズムの現状、ジャーナリズム教育と映像ジャーナリストのこれから

19:30～19:35 終演

4. 「戦争報道にかけた人々～テレビドキュメンタリーを通して見たフォトジャーナリストたちの実像」

共催 早稲田大学ジャーナリズム教育研究所、早稲田大学オープン教育センター、日本放送協会(NHK)

日程: 2009年11月27日(金)、30日(月) ※事前申込不要、先着200名程度

会場: 小野講堂

プログラム:

【第1日目 上映会のみ】

11月27日(金) 15:00～18:30

①『ロバート・キャパ 5つの戦場を撮った男』

(NHK-ETV 特集、1995年6月22日放送、45分)

上映時間: 15:05～15:50 (休憩5分)

②『カメラマン サワダの戦争～5万カットのネガは何を語るか～』

(NHK 特集、1982年2月26日放送、49分)

上映時間:15:55～16:44 (休憩 10 分)

- ③『戦場の目撃者ー9.11からイラク戦争へ カメラマンの記録』
(ハイビジョン特集 2004 年 9 月 6 日放送、90 分)

上映時間:16:55～18:25

【第 2 日目 上映+シンポジウム】

11 月 30 日 (月) 15:00～19:00

- ①『戦場から伝えるもの 日本人ジャーナリストたちの写真展』
(NHK-ETV 特集 2000 年 8 月 14 日放送、90 分) の上映

上映時間:15:05～16:35 (休憩 15 分)

- ②シンポジウム「なぜ戦争を撮るのか～フォトジャーナリストたちの視点」

開催時間:16:50～19:00

出演:野中章弘(アジアプレス・インターナショナル代表)、七澤潔(NHK放送文化研究所主任研究員、
上記番組のディレクター)、広河隆一(DAYS JAPAN 編集長)、花田達朗(早稲田大学教育学術
員教授、ジャーナリズム教育研究所所長)ほか

5. 「石橋湛山記念 早稲田ジャーナリズム大賞」記念トークセッション

『一枚の写真が社会を変える ～フォトジャーナリズムの現在～』

共催:早稲田大学広報室

出席者の作品紹介も交えながら、ジャーナリストとして社会に向き合う各自のスタンスや思い、一枚の写真の持つ力、
フォトジャーナリズムの現状・課題、等々について語っていただきます。

日程:2009 年 11 月 29 日(日) 14 時～16 時 30 分終了予定

※事前申込不要、先着 200 名程度

出演:田沼武能(写真家、日本写真家協会会長、早稲田ジャーナリズム大賞選考委員)

広河隆一(「DAYS JAPAN」編集長、第2回早稲田ジャーナリズム大賞受賞者)

古居みずえ(フォトジャーナリスト、アジアプレス・インターナショナル、

第6回早稲田ジャーナリズム大賞受賞者)

佐藤賢二郎(報道カメラマン、毎日新聞社外信部)

司会 熊切圭介(写真家、日本写真家協会副会長)

6.2 日間連続企画「写真から映像へ」

共催 早稲田大学川口芸術学校

日程:2009 年 12 月 4 日(金)・5 日(土) ※事前申込不要、先着 150 名程度

会場:小野講堂

【第 1 日目】12 月 4 日(金)

・坂田雅子監督 写真家グレッグ・デビスへの鎮魂歌^{レクイエム}ー「花はどこへいった」上映・講演会ー

出演:坂田雅子(『花はどこへいった』監督)、高橋恭子(早稲田大学川口芸術学校副校長・教授)

・オープン教育センター(映像芸術表現)と川口芸術学校による授業で制作したヒューマン・ドキュメンタリーを
上映

14:45 第一部 坂田雅子監督 写真家グレッグ・デビスへの鎮魂歌^{レクイエム}
ー『花はどこへいった』上映・講演会ー 挨拶、監督紹介
14:55 『花はどこへいった』上映
16:15 休憩 15 分
16:30 講演「写真家グレッグ・デビスへの鎮魂歌^{レクイエム}」
坂田雅子監督・短編「Out of Time」(約 15 分)を上映し、高橋教授との対談。
17:30 終演予定
18:30 第二部 オープン教育センター(映像芸術表現)と川口芸術学校による
授業で制作したヒューマン・ドキュメンタリーを上映
21:00 終演予定

【第 2 日目】12 月 5 日(土)

記録映画の中のフォトジャーナリストたち『中村梧郎の追跡 30 年
～枯葉剤被害は終わらない～』

出演：中村梧郎(フォトジャーナリスト・前岐阜大学教授)、
高橋恭子(早稲田大学川口芸術学校副校長・教授)

「表現する若手ドキュメンタリスト

～早稲田大学川口芸術学校生のドキュメンタリー作品から

11:00 第一部「表現する若手ドキュメンタリスト

～早稲田大学川口芸術学校生のドキュメンタリー作品から

14:00 終演予定

14:30 第二部 記録映画の中のフォトジャーナリストたち

『中村梧郎の追跡 30 年 ～枯葉剤被害は終わらない～』上映・講演会
司会進行：高橋恭子

14:40 『NBS 月曜スペシャル 枯葉剤被害は終わらない

～報道写真家・中村梧郎の 30 年』NBS 長野放送制作(2007 年)上映

15:30 休憩 15 分

15:45 中村梧郎氏による講演

17:00 終演予定

7. 本橋成一監督『バオバブの記憶』上映会・パネルディスカッション

出演：本橋成一(写真家・映像作家)、谷川建司(早稲田大学政治経済学術院教授)

司会＝石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程：2009 年 11 月 21 日(土) ※事前申込不要、先着 200 名程度

会場：小野講堂

8. 『現代若者の眼力^{めぢから}』パネルディスカッション

出演：細江英公(写真家、清里フォトアートミュージアム館長)、山地裕子(同館 学芸員)、

北野謙(写真家)、会田法行(写真家、早稲田大学政治経済学術院非常勤講師)

司会＝石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程:2009年12月15日(火) 15時～18時(途中休憩30分) ※事前申込不要、先着200名程度

会場:小野講堂

9. 『占領期雑誌フォトスを語る』パネルディスカッション

出演:谷川建司(早稲田大学政治経済学術院教授)、原田健一(新潟大学教授)、

馬場公彦(岩波書店編集者)

司会＝石井仁志(20thメディア評論(音楽・写真・映像)、メディアプロデューサー)

日程:2010年1月16日(土) 15時～17時30分 ※事前申込不要、先着200名程度

会場:小野講堂

上記ほか、「ジャーナリズム・シンポジウム」を12月10日(木)に大隈小講堂にて開催予定。

ワークショップ

「初心者向けデジタルカメラ教室」

実施:株式会社 ニコン イメージング ジャパン

実習内容:早稲田大学構内(特にギャラリーや展示内容など)の取材

日程:2009年11月25日(水)

時間:13時～17時(13時～14時30分:講義、14時30分～15時30分:撮影実習、

15時30分～17時:講評)

会場:26号館大隈記念タワー3階302号室

申込方法:当日参加もできますが、ご予約されることをお勧めいたします。

お名前・ご連絡先・参加人数をご記入の上、kikaku@daysjapan.net

または03-3322-0353(FAX)までお申し込み下さい。

定員:30名(カメラ貸出は先着20名)※機材を借りる方は、SDカードを持参すること。

ボランティア活動等

フェスティバル運営のための協力者を募り、研修を行ったうえで多種多彩な活動を実施する。

対象:フォトジャーナリズムに興味のある方(学外含む)、世界で起きている事に関心をもっている方、NGOなど世界に仕事の場をもとうとしている方、それらの現状を伝えたいと思っている方。サークル単位などでの参加も可。

※活動内容例:展示に関わること(事前準備・設営・解説・会場監視・撤収など)／各イベントの運営(事前準備・設営・受付・撤収など)

※2009年8月1日より研修を実施。単発参加でも通しの参加も可。参加希望者は随時受け付けている。

ブックフェア

早稲田大学生協同組合による、ジャーナリズム関連書籍のブックフェア開催

開催概要

【開催期間】 2009 年 9 月 28 日(月)～2010 年 2 月 27 日(土)

コア期間 2009 年 11 月 23 日(月・祝)～12 月 5 日(土)

【会場】 早稲田大学 早稲田キャンパス・戸山キャンパス

大隈記念講堂、27 号館小野梓記念館(小野記念講堂、ワセダギャラリー、地下 1 階通路)、
26 号館 10 階 125 記念展示室、学生会館 ほか

【入場料】 早稲田大学学内開催イベントは無料

【共催】 早稲田大学(文化推進部)・DAYS JAPAN

【学内参加箇所】

[A]①政治経済学術院、②文学学術院(文化構想学部)、③教育・総合科学学術院、

④川口芸術学校

[B]①教務部、②学生部、③総務部(総務課)、④キャンパス企画部、⑤広報室

[C]①ジャーナリズム教育研究所、②イスラーム地域研究機構

[D]①オープン教育センター、②平山郁夫記念ボランティアセンター、

③エクステンションセンター

【全体および個別イベント共催・協力・協賛・後援 等(予定)】 50 音順

清里フォトアートミュージアム／株式会社 シグロ／東京都新宿区／株式会社 ニコンイメージング ジャパン／
日本放送協会(NHK)／毎日新聞社(写真部)／早稲田大学生生活協同組合 など

交通案内

●メイン会場：早稲田大学 早稲田キャンパス

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

URL: <http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

問い合わせ先

●早稲田大学

文化推進部 文化企画課

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 大隈記念タワー2 階

TEL 03-5272-4783／FAX 03-5272-4784

E-Mail: pjf@list.waseda.jp

URL: <http://www.waseda.jp/cac.index.html>

●DAYS JAPAN

(株)デイズジャパン プロジェクト事業部

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-37-19-302

TEL:03-3322-4150／FAX:03-3322-0353

URL: <http://www.daysjapan.net>